

建築士

おおた

2014 NO 112



公益社団法人 大分県建築士会

CONTENTS

1. 新会長就任挨拶(巻頭言)	会 長 井上 正文
2. 25年度公益事業の成果	佐賀関支部 井上 雅順 日田支部 熊谷 高則 宇佐支部 渡辺 賢一 中津支部 是本 昭善
9. おおいた建築セミナー	大分支部 伊藤 憲吾
12. ストローハウスを作ってみよう	大分支部 岩田 政勝
14. KIZUNA佐賀参加報告	高田支部 後藤 憲二
17. インフォメーション(支部便り)	別府支部 小山 秀輝 臼杵支部 板井 祐輔
20. 我が街の建築士紹介	大分支部 小川 淳
21. マイワーク	中津支部 山村 増治 宇佐支部 奥田 和彦
22. マイベストブック	臼杵支部 佐藤 暢彦
23. おおいた建物発掘隊	別府支部 小山 秀輝
24. 事務局だより	大分県建築士会事務局



■ 表紙説明 ■
表紙のイラスト
別府支部 新山俊則 作



多様性の会、楽しい会

公益社団法人 大分県建築士会
会 長 井 上 正 文

芳山前会長の後を引き継ぎ、本年6月の理事会で会長に選任されました井上です。わたしが大分県建築士会に入会したのは、福岡の地から大分大学に赴任した直後の昭和54年の暮れだったと思います。全く見知らぬ土地に来たこともあり、大分の情報収集にはもってこいの会と思ったのだと思います。それ以来、わたしの期待にたがわず、会員の皆様からは地域の情報提供だけでなく、現在まで変わらず親しくお付き合いを頂いております。わたしにとって、この人的交流は人生最大の贈り物であり、まさにこれが建築士会入会の最大のメリットだったと思っております。37年前、大学院生の頃の指導教授の『建築士の資格くらいは、学生のうちに取っておきなさい』の助言から、取得した資格ではありますが、その結果がこんなに大きなご褒美になろうとは思ってもみませんでした。

さて、最近、「多様性（ダイバーシティ）」という言葉をよく耳にするようになりました。「多様性」とは、社会や組織の活力の源泉という見方もされており、その重要性が指摘されているところです。場合によっては、「男女共同参画」とほぼ同義語として使われることもあるようです。いずれにしろ、いろいろな年代の人たちが立場・職種・価値観の違いを乗り越えて集い、議論しあい、実践活動の中で自己を高め、社会貢献していくことが求められています。建築士会は、建築という言葉キーワードとして、人々の生活環境の改善を目指す、多様な職種・立場の会員からなる、「多様性」に富んだ組織の典型ではないかと思っております。このような意味で、我が大分県建築士会は、多様な側面からの取組み・活動を通じて、自己研鑽と社会貢献を目指した活動

を活発化させていく必要があります。

「楽しい」という言葉は、生活の色々な場面で使われます。「人生を楽しむ」は、生きる意味とも考えられます。「樂をする」も「楽しむ」も同じ「樂」という漢字が使われますが、意味は全く異なります。興味のあることに、一生懸命に取り組み、困難を乗り越え、その結果が社会貢献に結びついていけば、最高の喜びを感じることができるでしょう。大分県建築士会会員の皆様が本会活動を通じて、この最高の喜びを感じて頂ければ、会員としての誇りも生まれ、会員としてのメリットも十分に感じていただけるのではないのでしょうか。

2年後の平成28年10月には、建築士会全国大会が、我が大分県で開催されることがすでに決定しております。4000名近くの建築士会会員が全国から集う大イベントです。本会会員全員の力を結集して、この大会を成功に導きたいと思っております。この全国大会の準備・運営においても、大分の地にお見えになる多くの建築士の方々に大分を満喫していただくことはもちろんですが、段取り・運営に当たっていただく大分県建築士会会員の方々にも、「おもてなし」のための準備を楽しんでいただくことを強く希望しております。

会員減少が続く中、会員増強は本会としての最重要課題です。「多様性」に富み、「楽しい建築士会」を基本に据えつつ、会員増強を含めた本会の運営に当たって参りたいと思っております。今後とも、会員の皆様からのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

平成25年度 公益事業の成果

佐賀関支部

佐賀関支部編集委員 井上 雅順

前号でお伝えしたとおり、公益事業として「まちあるきマップ」と「住まいのリフォーム相談会」の案内パンフを8000部作成し、支部管内のすべての世帯に自治委員の協力のもと配布し、8月31日に昨年の公益事業にて設置した商店街広報案内板の前でマスメディア取材のなか、NPO法人さかのせきまちづくり協議会に寄贈しました。贈呈式では、「佐賀関の観光に役立ててほしい」という嵯峨支部長の挨拶の後、マップを受け取ったNPO法人からは「大変意義のある活動であり、ガイドに有効に活用したい。」との謝辞をいただき、スタッフ一同の引き締まる思いでした。

に合わせた木造住宅の耐震診断及び耐震改修の方法と補助制度や融資制度について説明し、安心安全な住宅に改修することの大切さを聞いていただきました。

その後の相談会は、支部管内随所の会場で行い、最終日の11月23日までの間に計4回開催し延べ7名の方から様々な相談を受けており、一部を紹介いたします。

相談その①

60代後半の御夫婦の相談では、4世代10人が暮らす築80年の古民家を大規模リフォームしたいと検討されており、まずは現地確認しました。

母屋が築80年以上の木造2階建てで、昭和50年に一部増築しており、さらに横増築として平成2年にRC2階建てを建築していました。

母屋の屋根は瓦が一部剥がれており、ブルーシートで覆われているものの雨漏りしており構造材等が腐食していましたが、全体的には堅牢な造りを維持しており、耐震性を確認するため耐震診断することを勧めました。この作業には、会員外の建築士に相談し、行政への申請等もスムーズに行われ、既存建築物のどこが弱いのが判明しました。

その後、リフォームプランを作成するため、建築主と数度に渡る協議を行い、家族構成や現在の生活パターン、父母の介護状況などを聞き取り、新生活に向けた、リフォームプランを作成しました。

その後、建築主の承認を受けて耐震改修計画をしたところ、耐力度が向上し補助を受けられることとなったことから、来年度の耐震改修補助申請に向けた作業をしているところです。



まちあるきマップ面

住まいのリフォーム相談会を開催します。 相談見積無料

公益社団法人 大分県建築士会佐賀関支部からのお知らせ

住宅のリフォームや高齢化及び高齢者の住宅改修、バリアフリー化等について、下記の日程にて「住まいのリフォーム相談会」を開催いたします。住まいに関する相談や見積については、無料で随時受け付けいたしますので、ご遠慮なくご相談にお越しください。

公益社団法人 大分県建築士会 佐賀関支部長 嵯峨 雄二

会場名	日時	場所
佐賀関会場 / 平成25年 8月31日(土) 10時～15時		大分市商工会議所佐賀関支所4階ホール
佐賀関会場 / 平成25年 11月23日(土) 10時～15時		旧佐賀関町役場跡地広場内(特設テント)
本陣崎会場 / 平成25年 9月21日(土) 10時～15時		本陣崎中学校内(増築遊戯室)
一尺屋会場 / 平成25年10月18日(土) 10時～15時		上瀬地区構造改善センター

第70年の旧家が新築の様に大変身!

相談無料!

依頼主	所在地	建築士	建築費
佐賀関市 佐賀関町 佐賀関町 佐賀関町	佐賀関町 佐賀関町 佐賀関町 佐賀関町	佐賀関町 佐賀関町 佐賀関町 佐賀関町	佐賀関町 佐賀関町 佐賀関町 佐賀関町

090-7443-7563

リフォーム相談会案内面

その後、相談会場にNPO法人のボランティアガイドの方たちも同行し第1回目の相談会を開始しました。人数も多かったことから、急遽、リフォーム



相談建築物全景



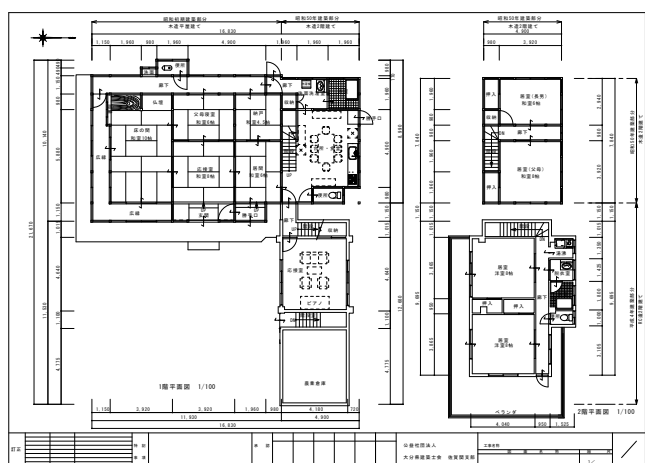
相談状況

り、とても危険な状況でした。

また、洗面室にはふとんや着物を収納しており、夏場はカビが発生することから、使用していない部屋を納戸として利用し、洗面室に浴室と洗濯をレイアウトしました。

さらに、便所は和式で汲み取りであったことから、洋式に変更し浄化槽の設置を提案しました。

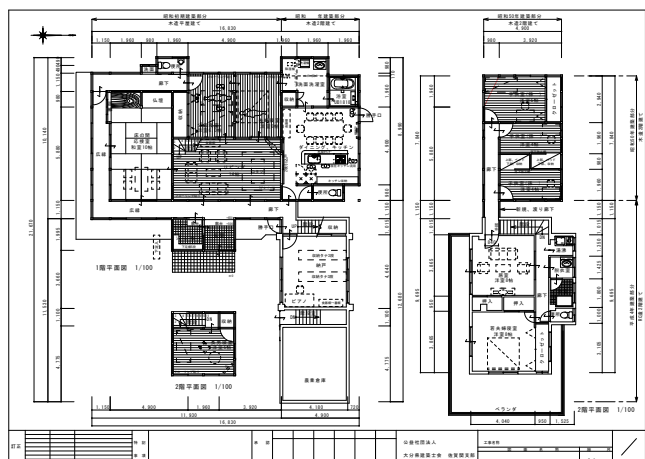
また、改修にあたっては介護改修や浄化槽設置にあたり行政からの補助金制度があることを提案し、これらの制度を利用することで財政的支援があることも提案しています。



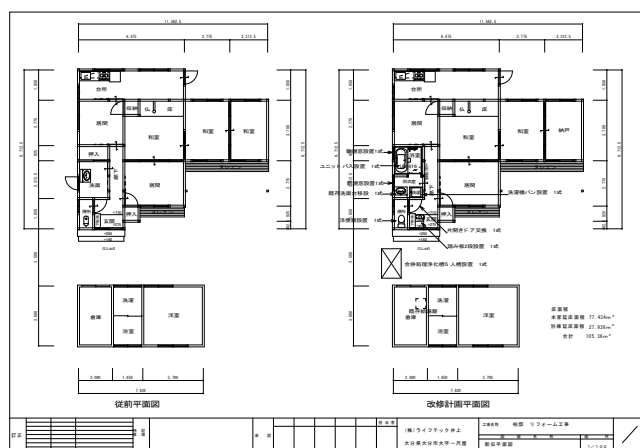
現況平面図



相談建築物全景



リフォーム計画平面図



現況平面及び改修計画平面図

相談その②

40代の男性からの相談では、同居する80代の母親の足腰が弱り、別棟にある風呂と洗濯に苦慮しているため、リフォームを検討しているとのことから早速、現地を確認しました。

母屋を拝見したところ、玄関の段差が60センチメートルもあり、これを踏み台1段で昇降してお

今回の活動で気付いた事は相談会の会場に来られる方よりも後日に支部事務局や会員に対して、リフォームの相談の電話をしてこられる方が多かった事です。いずれにせよ、現在相談を受けて進行中の案件が数件あるので、支部のスタッフみんなで頑張っておサポートしていきたいと思っております。そして相談してくれた市民の皆さんに「建築士会に相談して良かった」と言ってもらえたら最高です。

そしてもう一つの活動報告として、去る2月15日に佐賀関支部にて「大分県建築士会県南ブロック会議」を開催しました。この日は、年に一度開催される「関あじ関さば祭り」でした。

前日までの悪天候による降雪の影響で残念ながら欠席の支部もありましたが4支部参加のもと開催できました。

研修としては、当会員の設計した佐賀関漁協市場及び施設内の生簀や荷捌き所を見学しました。

この施設は漁師さんが釣ってきた関アジや関サバを生簀に入れ、魚のストレスを軽減した後、生き締めをしたあとベルトコンベアで搬送し、サイズ別に仕分け箱詰めした後、海水をろ過&滅菌して製氷した鮮魚運搬専用の氷を投入していました。

これらの作業にはハイテク設備が整っており、人力を省略するとともに活魚の鮮度を保つ技術について学びました。

次に、「佐賀関半島めぐりバスツアー」に参加しました。地元ボランティアガイドさんによる「佐賀関」の町名の由来や町内の史跡や建造物の歴史、昔の関所跡地の説明など建築士の研修に相応しい（←ここ重要）内容のバスツアーになりました。ツアー途中に立ち寄った関崎海星館の展望デッキから望む冬の豊後水道の眺めも圧巻でした。

次に、佐賀関市民センターに移動して、平成24年度の支部公益事業で提案した「みなとまちづくり事業」による商店街の各種サインや街灯の見学をしました。

次に、佐賀関市民センターのロビーに展示してあるモニュメントを見学しました。この作品はパンパシフィック・カッパー(株)が、昨年、老朽化した大煙突を解体した際のコンクリート塊の一部を台座に加工し、その上に金属工芸家である東京芸術大学学長の宮田亮平氏が制作した、イルカの群れが天をめざして登っていく姿が装飾された素敵な作品です。

「なぜサバじゃなくイルカなんだ？」というツッコミもありましたが台座のコンクリート部分に目をやると、さすがに建築当時から「東洋一の大煙突」と呼ばれただけあり、手作業とは思えない玉砂利の均一な混ざり具合、当時珍しい輸入物の鉄筋（断面が四角なうえに異径になっている）など、「この技術が167mの大煙突を支えていたのか」と感心しました。



モニュメントを囲む参加者のみなさん

その後、本日の会議場となる、佐賀関大平の「よしだ会館」に移動し、各支部の活動報告等の会議をしました。

各支部の報告を聞くとみなさんいろいろ活動をされていて刺激を受けました。その他に平成28年度に開催予定の全国大会における協力の件や県南ブロックソフトボール大会の話などで内容の濃い会議ができました。



会議の様子

会議の後の懇親会では「やはり佐賀関といえば関アジ関サバだろう」という事で用意した料理をみんなでおいしくいただきました。窓から見える別府湾を眺めながらの楽しい時間も過ぎ、その後散会となりましたが、盛り上がった一部のメンバーは場所を移動し、怒涛の二次会へと突入していきました。（まだ昼なのに・・・。）

とても寒い日でしたが充実した一日でした。以上で佐賀関支部の活動報告を終わります。

平成25年度 公益事業の成果

日田支部

日田支部 熊谷 高則

日 時 平成 26 年 2 月 8 日 (土) 13:30 ~
場 所 パトリア日田

日田支部では一般の方々に住まいへの関心をもっと広く知っていただくこと、年2回住宅セミナーを開催しています。今回は『整理収納アドバイザー 須摩由美さんによる快適な住まいの整理収納術』と題し、整理収納アドバイザーとしてご活躍されています、Happy House ダイエット 代表の須摩由美さんを講師としてお招きし開催いたしました。

募集定員100名に対し、当日の参加者は100名を超え、資料が不足するというトラブルもありましたが過去最多の参加人数となり主催者側としては嬉しい悲鳴となりました。



須摩由美さんによる講演

住まいのあるじはやはり女性ですね。

参加者の大半が女性の方々でした。須摩さんの話
に熱心に耳を傾けていました。

『整理収納』とは

自分に必要なモノを必要な量だけ、すぐに使えるように分かりやすくスタンバイできいる状態。(普段使うモノは30秒・普段使わないモノは3分以内に探しだせる)とのこと。

私は横になった時に手の届く範囲でモノが取れるようにしております。ただ部屋が散らかっているだけなのですが…。

モノを減らすことで家事時間も短縮され、その分夫婦の会話や家族の会話も増え、家庭の中で笑顔が増えたというエピソードも語られました。無駄なモノを減らしながら片付けることから始め、減らしながら整理していくことをご指導いただきました。住まいは収納が多ければ良いとは限りません。上手に整理し、必要なモノしか買わない。これはごみ問題、環境問題にも繋がってくるのだと思います。

この住宅セミナーは日田支部の調査研究部が主となり企画しています。毎度のことですがテーマには頭を悩まされます。住まいに関するあらゆる情報、よりよい住環境を提案していくために、これからも日々努力して行こうと思います。

調査研究部のみなさんお疲れ様でした！

平成25年度 公益事業の成果

宇佐支部

宇佐支部 渡辺 賢一

宇佐市四日市は東西本願寺の両別院が見下ろす門前町として400年以上の歴史があり、かつては商業の町として栄えていた。

町に活気を取り戻そうと「街なみ環境整備事業」を立ち上げたのが10年前。

H19年度より、整備方針に則り路面や住宅の改修が毎年行なわれている。

我々士会員も、調査に始まり修理・修景基準の作成を手伝うことになり、さらに毎年の補助事業希望物件の審査まで関わっている。

今回、宇佐支部は「建築士としてこれからの街づくりをどのように取り組んでいくか、を検証する」と題して、これまで支部が関わってきた四日市地区を散策することにした。

参加者が散策を楽しめるようにと、3名の選りすぐり(?)の講師を招いた。四日市伝統技能伝承クラブの末氏には四日市の歴史を、宇佐市役所都市計画課吉松氏には街なみ修景の経緯・内容等を、建築士会支部長梶田氏には実際の住宅修景・修理実績の説明をお願いした。





客観的に聴いていてもとても分かり易く、参加者からは「四日市がきれいになって、人も明るくなった気がする。うらやましい」、「地元に住いても知らないことがまだまだたくさんある。参加して楽しかった」という意見を聞くことができた。

四日市ではこの日、本願寺別院の暮れの一大イベント「お取り越し」が行なわれていた。

私が子供の頃にはこの期間は連日人でごった返していた。お取り越しは別院のご法要であるが、出店が寺の内外に立ち並び、それはそれはたいした賑わいであった。今は見る影もない。

本堂に上がり住職のお説教を聴いた後、予め頼んでおいた「お齋（とき）」をお昼にいただいた。お齋は仏教婦人会の方が準備してくださる精進料理である。朝から風が強くて寒かったので、温かいお汁がとても有り難かった。

久しぶりに歩いた故郷、四日市。

生まれ育った町はゆっくりと衰退してゆき、私は少し離れたところからそれを眺めているだけだと思っていた。しかし住宅や道路が整備基準に則って「きれい」になることにより、人が出てきた、声が飛び交うようになってきた。そして、軒先に商品が

並ぶ。・・・活性化が始まった、と感じた。

建築士会も公益社団法人となり、再スタートをきった。

会員数は減少の一途をたどり、偽称行為などによる社会的信用の失墜などなかなか難しい課題も多い。時間はかかるかもしれないが、ひとりでも多くの方が参加できる活動を続けていくことで、建築士の役割・魅力を知ってほしいと願う。私達も活性化に力を入れるときが来ている。



平成25年度 公益事業の成果

中津支部

中津支部 是本 昭善

・事業区分

講座、セミナー

・事業の名称

「～やまくに探訪・

史跡と文化財を訪ねる～」

・事業実施日時

平成25年11月10日

・実施場所

中津市山国町

・事業の概要

山国ボランティアガイドを伴い、建築士会のスタッフと共に市民参加型の中津市内の史跡巡りや旧家見学の講座の実施

・事業の内容

建築物見学と史跡巡りの組み合わせで、平成12年の第7回公共建築賞特別賞を受賞した「コア山国」と国重要文化財の「神尾家住宅」という、価値ある近代建築物と和風建築物の詳細説明を受けての建築物見学、また、国天然記念物の「猿飛颯穴群」や中津市指定名勝の「魔林峡」をガイド案内のもとでの史跡巡りという内容で、21名の一般市民参加の事業であった。大変好評で、建築士、及び建築士会の名を深く理解して頂けたと思う。

・今後の課題

特に年齢制限等はなしでの募集だったが、比較的高齢者の参加申し込みが多く、階段や坂道などアップダウンの多いコースであったため、注意が必要であった。今後は広い範囲の年齢に応じられる様なコース選定が必要である。

・当日のスケジュール

中津市役所→コア山国→神尾家→山本登久の墓→魔林峡→猿飛颯穴群→昼食→槻木診療所→木地師の墓→コア山国→道の駅→中津市役所

(木地師の墓は雨天のため車中にて説明)



受付風景



バス乗車風景



コア山国



神尾家



山本登久の墓



魔林峡・猿飛颯穴群



かかしワールド



槻木診療所にて紙芝居

『まち』と『建築』と『人』

～移りゆくまちなかで
思考する～

大分支部 伊藤 憲吾

平成25年11月16日に行われた「第1回おおいた建築セミナー」は、当初「第27回サマーセミナーinおおいた」として開催準備を進めていました。平成25年度より建築士会が公益社団法人化したこともあり、より広く一般の方にも建築士会の存在意義を知っていただく企画となるように名称を一新することとなりました。20年以上も続いた歴史あるサマーセミナーの意義を継承し、今後も発展していく為の記念すべき第一回となりました。

約半年をかけた準備段階では、大分支部青年部を中心に企画会議・検証を幾度も繰り返しました。大分支部青年部といたしましては、これまで大分駅周辺のまちづくりに積極的に関与していましたので、その経験を活かした企画となりました。

大分市では、駅ビルの建設、大分県立美術館の建設、大分都心南北軸事業の整備などが進んでいます。一つのエリアでまとまった変化が起きています。これは最後の大型公共投資、100年に一度の都市計画などと言われています。

日本全体では人口減少が始まっています。もちろん税収が減ります。これまでの右肩上がりの経済では無くなり、大きな転機をむかえています。建築業界にも転機です。今後、建築士はどのように地域が必要とされていくかが問われています。そんなこれからを考える為の場所にしたいと企画はまとまりました。

当日は、士会員はもちろんの事、一般からの参加者も多くありました。企画内容の魅力が伝わった事と、公益化したイベントですのでPRにも力を入れた事が功を奏したと考えています。広報活動は女性部の久野悦子女性委員長と高橋由美さんを中心としたチームに協力をいただきました。人に伝わらなければ良い企画も成功しません。よりよい広報活動があってこそその場所だったと感じます。

会場の構成や段取り、全体的な流れは青年部の日高雄介君が中心的な役割を担いました。見えない仕事が行き届きと行われた事で当日のスムーズな運営に繋がりました。影の立役者です。

それぞれの企画報告は、尽力した担当者からの報告とさせていただきます。

<基調講演>

担当報告者：宿理 浩司

『まちと建築と人』として題し、中心部に賑わいを失っている地方都市が増加している昨今、数々のまちづくり・にぎわいづくりに携わってきた西村浩氏（ワークヴィジョンズ 代表）を講師に招いて、他都市で行ってきたプロジェクトの事例の紹介と今後の展望について話していただきました。

にぎわいづくりの中で西村さんが大切にしていること、それは『まち』に安心と安全をもって『まち』を回遊でき、『まち』に暮らせ、緑の場をつくることで集うということでした。今、軸作りのもと変貌を遂げようとしている大分市においてまちづくり、にぎわいづくりの今後を考える貴重な講演会となりました。

今講演会は、建築士会会員だけでなく一般の方にも開放した初の試みとなっていたところ、一般の方が多数来場していただき関心の高さを感じることができました。



<第一分科会> 担当報告者：小川 公一

第1分科会では大分まちなか散策を行いました。大分都心南北軸整備事業が始まっている大分市中心部。ホルトホールやシンボルロードの市民による芝生貼りなど、分かりやすく変貌を遂げた大分駅南側に比べ、北側の商業地域は気のせい少し薄暗く感じます。中央通りの車線数だけでは語れない北側ならではの文化や、まちそのものの面白さ、人間臭さを知ってもらうために、我々建築士会として何が出来るだろう。今回のまち散策は、そんな願いや思いから企画立案しました。

当日は天候にも恵まれ、また多くの参加を頂き、思わずスタッフも武者震い。路地の面白さや古ビルの改修問題点など説明ポイントを挟んで約1時間半、シンボルロード・中央通り・竹町路地・wazawazaとめぐり、現代美術館としてアートイベントを開催中のフンドーキンマンションまで無事に参加者をエスコートしました。今後はまちの問題でもある古い建築のリノベーション研究会『魁!!リノベ塾』に意思を引き継ぎ、まちに貢献出来るよう努めてまいります。



<第二分科会> 担当報告者：橋本 大介

第2分科会では、「防災とまちづくり」をテーマに坂茂建築設計の渡部氏を講師に迎え、東日本大震災時にコンテナを再利用した仮設住宅等の災害時の住宅供給の取り組み、可動間仕切りの設営時の様子、渡部氏の海外での活動内容など、普段は聞けないようなとても為になる講演会でした。そして、大分市防災危機管理課の浜田氏に、大分市の防災についての取り組み状況、新しく整備されたシンボル

ロードの災害時の役割や防災対策施設の説明を受け、シンボルロード周りの現場見学会も行っていただき、備蓄倉庫の中や簡易トイレを見せてもらいました。

これから建築士が防災に対して何をすべきか？を考えさせられる講演会だったと思います。



<第三分科会> 担当報告者：市野瀬 康平

第3分科会では県立美術館の建設工事の現場見学を、発注者の大分県土木建築部施設整備課と建築の請負業者鹿島建設・梅林建設工事共同企業体の協力のもとで行いました。

始めに、現場事務所の1階で鹿島建設の現場所長の挨拶があり、県施設整備課の桑田主幹より事業概要の説明、鹿島建設より工事概要の説明がありました。

美術館は、世界的にも活躍している坂茂建築設計による設計で、鉄骨造一部鉄筋コンクリート造の地下1階、地上4階建てで延床面積17,084㎡、平成27年春オープンに向けて短い工期の中建設が進められており、建物は免震構造を採用し震度7の地震にも耐えることができ、災害への備えとして電気室、発電機室を屋上階に設置しているとのことでした。

続いて現場見学を行いました。見学時の工事現場は地下1階と地上1階部分を施工中でした。中央にある仮設の鉄骨作業構台から、地下1階の柱頭免震の設置状況を見学しました。地下の柱の上部に免振のゴムを確認できました。次に、県産の集成材で造られた外壁の木格子のモックアップ（試作品）を見学しました。

最後に現場事務所に戻り、エントランスの大型建具（水平折戸）の工場における試作品の閉閉試験映像を見せてもらい終了しました。



＜懇親会＞ 担当宴会部長：首藤 顕道

建築セミナー終了後に開催された懇親会には約80名の会員が参加されました。

ゲストとして大分市の無形民俗文化財指定の「杵原太鼓保存会」の方々を迎え、和太鼓の演奏を披露して頂いた。全身を使って演奏される和太鼓の迫力を通して、大分市の伝統的な文化の一端に触れて頂くことができました。

セミナーで基調講演を頂いた西村浩氏にもご参加頂き、ぎっくばらんなお話を聞くことができました。各支部会員にも大きな刺激を与えたようです。

初めての試みとしては、各支部の新入会員の方から自己紹介を頂きました。たくさんの方に顔と名前を覚えてもらうよい機会になったと感じます。

その他にも、各支部からのお土産や、各支部対抗のアトラクション等で盛り上がり、会員同士、大い



に親睦を深めて頂いたと感じています。歴史あるサマーセミナーの良い継承となりました。

最後に、懇親会に先立って開催された青年部長会議で次回の共同開催が決まった、三重・竹田両支部の青年部長からは次回開催への力強い言葉を頂き、盛況の中、懇親会を締めくくることができました。

以上、各担当者からの報告でした。

初めての試みもあり不安の絶えない「第一回おおい建築セミナー」でしたが、多くの仲間の協力により無事に開催することができました。会員や一般の方によく参加いただき、良い感想の声も多く聞かれ、大成功のイベントになったと感じております。

成功の裏には、大分支部の方々、事務局の方々、多くの皆さんのサポートがありました。この場を借りてお礼申し上げます。お陰さまで運営側も楽しく行う事が出来ました。ありがとうございました。

これからの建築士にとって必要なのは、まちに対する意識や防災の視点など様々ありますが、大切なのはネットワークと行動力のように思います。建築士は新しい時代に対し何をすべきか？…建築士会という団体にしか出来ないことも多いように感じています。今回は建築士会員の皆様の今後のアクションに繋がる「場」になったと感じています。



ストローハウスを作ってみよう

大分支部 岩田 政勝

1. はじめに

では、問題。66%と25%、この数字は何でしょうか？

この数字は阪神淡路大震災での建物被害状況の数字である。66%は昭和56年以前の建物の中で倒壊や大破・中破した割合である。3棟に2棟が大きな被害を受けている。25%は新耐震基準以後の昭和57年以降の建物の割合である。大きな被害を受けた建物は4棟のうち1棟に止まっている。

また、6,434名の方が亡くなっているが、その88%が圧死で、建物の倒壊や家具の転倒など建物が大きく揺れたことが原因で亡くなっている。建物が壊れていなければ亡くならずすんだ方が大勢居たわけである。

このことは昭和56年以前の建物を地震が来ても壊れないようにすれば、被害者は大幅に減らすことが出来ることを意味している。

2. 大分県の耐震化状況と取り組み

大分県も平成27年末までに耐震化率を90%にする目標を設定し建築物の耐震化に取り組んでいる。しかし、目標達成は大変厳しい状況にある。

木造住宅耐震化工事の補助制度があるが、利用件数は毎年2桁に止まっている。テレビや新聞でのPR、パンフレットの配布等を行っているが、率も件数もなかなか増加しない。

なぜなのでしょう。昭和56年以前の住宅には高齢者が住んでいる率がどうしても高くなる。高齢者の方に「耐震補強しましょう」と言っても帰ってくる言葉は「いまさら…」である。

直接、高齢者を説得しても厳しいのが現状である。そこで、考えた。お孫さんに耐震補強の重要性を教え、お孫さんから、おじいちゃん、おばあちゃんを説得してもらおうと。

3. ストローハウスを作ってみよう

しかし、大きな問題がある。小学生相手に「耐震壁」「すじかい」と専門用語を並べたところで理解できるであろうか。

困っているとき、偶然に愛知県で子供向けの防災

教育を行っていると聞いた。それがストローハウスを使ったものであった。

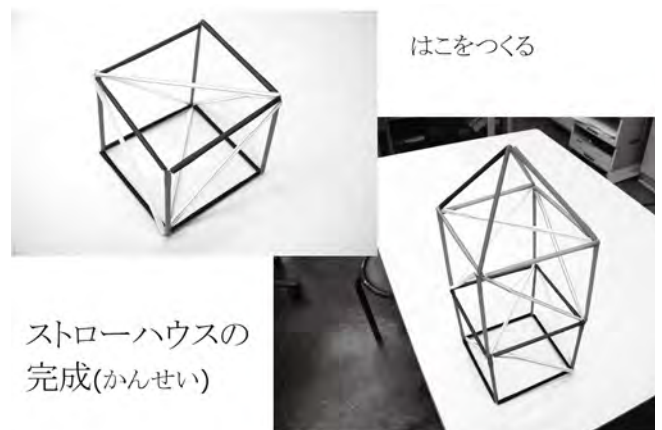
さらに、湯布院公民館が小学生を対象に放課後教室を開催していることを知り、担当者をお願いしたところ快諾していただき、防災月間である9月18日に行うこととなった。

生徒は1年生から6年生までの35名である。5班に分け、各班に2名の県職員を補助員として配置し、説明は当課の紅一点の青木主任が行った。まず、地震で粉々に壊れた家の写真を大写し、地震の怖さでビビらせる。次はアカデミックに地震発生メカニズムを説明し、最後に建物の耐震補強の重要性を理解させる。

さて、お勉強したところで、楽しみながら理解を深めてもらう。最初に柱やはりになる短いストローをクリップでつないで四角を作る。さらに、長いストローを斜めにつなぐと四角が崩れなくなる。次に箱型を作って、すじかいとなるストローを取り除くと箱が崩れる。これを体験してもらうことが重要なポイントである。

教室内は「できん」「むずかしい」「できた」と子供たちのリアクションはさまざまで、大騒ぎであったが、子供たちはすじかいの役割や大事なことがわかったと喜んでくれた。

そして、この子供たちが今日のことを、家に帰っておじいちゃん、おばあちゃんに話してくれることを願いながら教室を終えた。





4. ストローハウスの作り方 (レシピ)

材 料 ストローとゼムクリップ

道 具 ハサミと物差し

作り方 ①クリップとクリップをつなぐ

②つないだクリップにストローを差し込む

ストローハウスのつくりかた その3

いろいろなつなぎかた



2!ほんをつないだ!!

3!ほんをつないだ!!



5. 結び

大分県でも今後50年以内に90%の確率で南海トラフ大地震の襲来があるとされており、その揺れは阪神淡路大震災と同程度の激しいものとなることは想像に難しくない。

建築行政に携わっている我々にとって最大で喫緊の業務は、来る南海トラフ大地震でいかに被害を小さく出来るかである。そのためには、地震被害を減少させる効果がありそうなことは何でも実行に移すことが重要であり、それは「まったなし」である。



Kizuna 佐賀に参加して

高田支部 後藤 憲二

九州パッションが、熊本県山鹿大会で終わりを迎え、九州ブロックの大会が建築士の集いの年1回になることとなったが、有志が集まり沖縄県沖縄市において新しくKizuna（キズナ）という九州ブロック規模での大会が発足した。

ブロック公認事業ではないため、すべてが手弁当による大会運営だが、第1回の沖縄大会に続き第2回の佐賀大会が今回開催された。

第1回は、交通アクセスの条件もあり約70人の大会であったが今回は一気に200人程が参加する大会となった。

パッションを始めたころに立ち返り、建築士会九州ブロック所属の建築士の交流を第一に考え、それぞれを繋ぐ絆のきっかけとして分科会と交流会を開催した。

大会の内容は以下の通り

パッションからつながるKizuna佐賀 ～雛Festival～ 佐賀城下ひなまつり

- 第1分科会 佐賀城下ひなまつり
～まち歩きフォトラリー～
会場：佐賀市中心市街地
- 第2分科会 名尾和紙体験
(今回は都合により中止)
- 第3分科会 バルーン&ペタンク
会場：嘉瀬川河川敷
- 第4分科会 陶芸体験
会場：陶路館うるおっと
- 第5分科会 野口淳史と走ろうかい！
～ジョギング名所めぐり&温泉～
会場：佐賀市内&ぼかぼか温泉

交流会は、The Sagan サガン鳥栖のスポーツバーを貸切で開催された。

大会運営費用節減のため、開会セレモニーは、佐賀県建設会館の大会議室で開催された。日頃、佐



賀県建築士会の活動拠点となっている建設会館に初めて訪れることができ、日頃の大会で使用するコンベンションセンターの本大会会場で行うのとはひと味

違って良かった。

ひな祭りになぞらえて佐賀士会の女性会員の方々が着物姿で受付と案内してくれて男性会員からはとても好評のようだった。



第1分科会は、佐賀城下を街歩きしながらのフォトラリーであり、ひな祭りで賑わう佐賀市内を縦横無尽に動き回ったようだ。



私は、第3分科会に参加したが、会場の嘉瀬川河川敷までの移動バスはなんと熊本県建築士会が大会参加のために乗ってきた貸切バスを利用させてもらった。

なるほどこんな手があったのかと実行委員会の皆さんのアイデアと熊本県士会の気風の良さに感心した。



しかし、他県から来たバス会社のため河川敷の鉄道鉄橋下のクリアランスが分かるはずもなく、くぐれないかもしれないというハプニングがあった。河川敷の土手を駆け上り運転手さんにバス天井とのクリアランスを伝えながらぎりぎりでも通過した。本当にぎりぎりでも、タイヤの空気を少し抜かないと通れないかもしれないとひやひやだった。



バルーン搭乗及びペタンクの競技ともに初めての経験だった。ペタンクの競技を行いながらグループごとに随時バルーンに搭乗するというローテーションで行われた。



ペタンクは、カーリングの陸上版とでも言った方がいいのかという競技だった。4m×15mのテラン(コート)を使用して、鉄球をそれぞれのチーム3人が1人2個ずつの球を持ち最初に目標玉(ビュット)となる投げることから始まるのだが、この時からすでに心理戦が始まり、河川敷で行うのでテラン内には微妙な起伏や

小石があるので波乱の連続で敵味方と鉄球を投げるごとにチームの3人が一喜一憂しながら楽しめた。カーリングとの違いは目標玉が常にポイント計算の中心となるため、的玉に当てて自分のチームの投てき玉に近づけることもでき大逆転もあった。どうしても不利な場合は目標玉をテランの外に弾き出すという大どんでん返し戦法もあり、最後まで気が抜けない。

最後は目標玉にどれだけ近いか勝負の分かれ目になるのだが、微妙な距離の場合も有り計測に入ると両



チームともどきどきだった。

ちなみに今回使用した用具は、自治体が貸し出しを行っているとのことであった。大分県内でも貸し出しをしてくれるところがあると良いなと感じた。

バルーンは、地上に係留して地上15mほど上昇させるのですが、地上溪流の時は思っていたより風の影響が大きいようで風の強さを普通の風船で行っていた。このくらいだったら問題ないと思うくらいでも、飛ばせるかぎりぎりの風だとのことであれほど大きくてしっかりしているバルーンだけでも地上付近での上昇下降には風が天敵のようだ。幸い風も弱まり今回は無事に搭乗体験ができた。



いよいよ登場の順番が来てバスケットに乗り込んだがバスケットが大きいので乗る順番もよく考えないと傾いてしまう。特に私のようなでかい者はキーポイントとなる。(笑)



離陸にはバルーン内の空気を軽くするためにバーナーでゴーゴーと噴射して空気を暖めるが、この音が迫力満点だ。地上を滑るように離陸していきあつという間に地上の人たちが小さく見えるようになっていく。地上15mの世界は同様の高さのビルからの視界とはまるで違いすごく高く感じた。鳥たちはいつもこんな視界を経験しているのだと羨ましくなった。まさに鳥瞰視界を体験できた。



第4分科会は、日頃建設に携わっている建築物とは違い自分たちの手のひらに収まる陶芸作品を講師の先生に教えを請いながらの制作だが、気分は一流の陶芸家といったところだろうか。



第5分科会は、今回なんと分科会で佐賀市内の走行会と温泉を堪能するという今までにない発想の分科会で、佐賀士会員の野口さんのフルネームを冠に付け、会長や歴代の青年委員長などがホストに回る



豪華なもので、ある意味佐賀士会の総力が結集した分科会だったのかも。



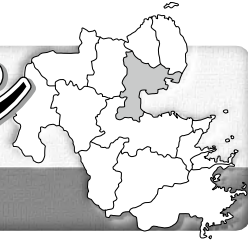
交流会は、スポーツバーということで場が盛り上がる設計になっているが、“九州は一つ”という合い言葉の元続いてきたパッションの思いを継承したKIZUNAだけあり大いに盛り上がった夜となった。



次回、26年度は宮崎士会の有志の運営で青島を会場として第3回大会が行われることとなりました。開催時期は、26年の11月頃の様です。

Kizuna (キズナ) は、開催県の特徴が色濃く出ており、ブロックの公認事業でないことが幸いしてか自由な発想で分科会が組まれており、未体験の事に触れられ、開催地の良さをしっかりと堪能できた。

今回の大分県からの参加者は、玖珠支部の瀧石さんの急病による欠席で、青年委員長の竹宮さんと私の2人だけの参加となりましたが、次回宮崎は隣接県でありながら交通の不便さなどで意外と訪れることの少ないかと思います。(自分が県北に住んでいるからかもしれない。)是非参加してみたいかかでしょうか。きっと新しい宮崎を感じることができると思いますよ。



支部研修旅行(松山編)

別府支部 小山 秀輝

平成 25 年 1 月 26 日(土)～27 日(日)に、別府支部の研修旅行で愛媛県松山市へ出かけました。今回の研修旅行は、以前松山支部の方々が別府市へ訪れた際に、次は別府支部が松山市へ行くと約束したことから計画されました。

参加者は 24 名で、初日にまず八幡浜から松山市内に向かい、伊丹十三記念館を見学しました。外壁全体を焼き杉で覆った閉鎖的な外観と、中庭を囲む開放的な回廊が大変印象的でした。



伊丹十三記念館

次に松山支部の方に伊佐爾波神社～道後温泉と案内していただきました。伊佐爾波神社は、大分の宇佐神宮と並び全国に三例しかない八幡造りの社殿であり、松山支部の方の解説は大変興味深く、大変勉強になりました。

また、その日の夜は、松山支部の方々と交流会を行い、大変有意義な意見交換ができました。



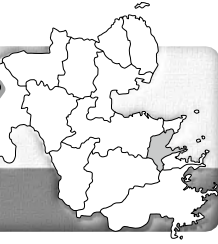
道後温泉にて

二日目は、国重要文化財に指定されている萬翠荘を見学しました。通常小屋裏は公開されておませんが、松山支部の方に案内していただき、建築当時(大正 11 年)のまま残されている鉄骨の骨組みを見ることができました。その後、坂の上の雲ミュージアム～松山城二の丸史跡と見学をしました。



萬翠荘(小屋裏)

なお、今回の研修旅行の最後に、八幡浜市立日土小学校の見学も考えていましたが、時間の都合上持ち越しとなりましたので、それは次回のお楽しみとしつつ、今回お世話になった松山支部の方々に感謝したいと思います。



アートの旅 in 直島

臼杵支部 板井 祐輔

平成 26 年、臼杵支部では（壮年部の）長年の悲願であった「直島アートの旅」を敢行した。時間的な制約の厳しいなか高橋・二村事業部の音頭により、2月8日、陽もまだ明けやらぬAM4:15に集合。残念ながら3名の欠席者を出すものの、遅刻者もなくAM4:45に臼杵港出港。海は凧、当然船中は皆さま夢の中。AM7:00八幡浜港に到着し、バスに乗り換え一路高松を目指し出発する。ここから臼杵支部の忍耐と胆力が試される旅が幕を開ける。強烈な寒波により四国は雪。高速道は全面通行止め、一般道とはいえば積雪で渋滞。事業部は車中でてんやわんや。「昼食の時間は！直島行きの船は！」と翻弄されるも、そこは経験と英断にかけては支部随一の事業部精鋭隊。見事な時間調整を行う。

途中、高松の名勝栗林公園を急遽見学する（写真1）。国の特別名勝に指定されている中で最大規模を誇るこの公園、16世紀から100年を掛けて築庭されたそう。借景の紫雲山も雪をまとい1千本の松と相まって見事な景観。長時間のバス移動も報われる。

昼食に讃岐うどんを堪能したのち、予定より3時間遅れのPM4:30に、なんとか直島へと上陸した。が、安藤ミュージアム等の見学施設は軒並み雪の為臨時休館という始末。外観見学と周辺地区を散策するにとどめる。「角屋」や「暮会所」の他、一般家屋の外壁意匠を焼杉にて統一した地区全体でのプロジェクトへの取り組みに感銘を受けるも、いかんせん臨時休館。時間を調整し明日再訪することとし、本日の宿へ向かう。

PM5:30、宿に到着し至高の「お・も・て・な・し」

を……。様々な意見があるかも知れないので、その内容はそれぞれの胸中に秘めておくこととする。また、オーストラリアや京都から観光に来ていた方々との予期せぬ交流もあり、壺中の天にて夜は更けるのであった。

翌、2月9日、前日の雪が嘘のような快晴となる。朝一の海辺で黄色い巨大ブツブツカボチャ（写真2）を見た後ベネッセミュージアムを見学する。安藤建築の代名詞である打放しコンクリを前に、「結構目違いがあるが」「ファンデーション、ファンデーション」とのたまう壮年部。ある意味ほっとするも、その内部空間の重みと切れ味に圧倒される。展示も斬新なものからオーソドックスなものまで存分に楽しめるが、そこは建築士会、目線が違う。建物の納まりや仮設計画の話がはずむ。ミュージアム建設時の安藤氏のスケッチも閲覧でき、その線のタッチに躍動を感じる。それぞれの設計意欲や施工意欲が掻き立てられるのであった。ミュージアムでは館外の海辺や庭にも興味深い作品があるそうだが、時間の都合上つぎの目的地「地中美術館」へ向かう。

AM10:00 地中美術館に到着する（写真3）。こちらも勿論、安藤建築。建築とアートの融合がコンセプトなのか、極限まで切り詰めたデザインが冴える。地上に立ち上がる外観のデザインを避け、地中だけで構造体を構築しているとのこと。館内への外部光の引き込み方や見せ方はもはや芸術の域。と思ったら、ジェームズタレルの作品だと。クロードモネ「睡蓮」の色合いに、建築と通ずるものがあるのかと見入ってしまうなど、なかなか見ごたえ満載の美術館であった。しかし、壁が垂直でない廊下は歩きにくい……。

さて、無事美術鑑賞も終えて、最後に向かうは前日見られなかった安藤ミュージアム。時間が押しているなか、駆け足での見学ではあったが、一見の価値はあった。築100年の木造古民家を改修し、コンクリートの内部空間を生み出した古いながらも新しい建物である。スリットから差し込む陽光や室内の陰影が、打ち放しコンクリに映える。と、後ろで「こりゃ屋根ばらしち、上からうったんかや？」「混構造じ計算いんのかや？」「3階建てにゃならんのかや？」と。みな考えることは一緒です……。恐ろしくも楽しき職業病。こちらでも安藤氏のスケッチや模型が存分に楽しめます。

わいわいと語らう内に、はや出発の時間。島内で最後の昼食を済ませた後、港の赤い巨大ブツブツカボチャに別れを告げて島を離れる（写真4）。帰路は岡山～瀬戸大橋経由で高速にて八幡浜をめざす。前日の苦痛が嘘のような高速での軽快な走行。予定時刻のフェリーに乗船し冬季オリンピックを見ながらのんびりした船旅にて、みな無事に白杵に帰り着く。初めから最後まで時間に追われた感はあったが、ハプニングも含めて存分に楽しみ、建築感覚を研鑽することのできた研修旅行であった。

最後に、ハプニングにもめげず調整に奔走してい

ただいた事業部高橋・二村両氏に感謝である。

しかし、宿の冷たいおでんとハンバーグはないよなあ……。おっと失礼。



写真1

栗林公園にて



写真3

地中美術館

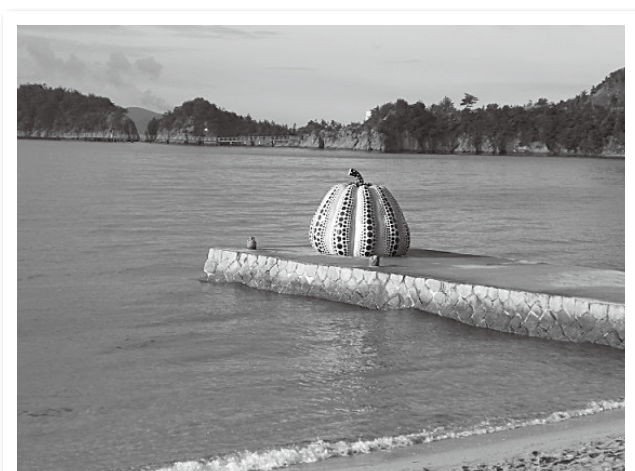


写真2

芸術家 草間彌生氏作品
カボチャのモニュメント①



写真4

芸術家 草間彌生氏作品
カボチャのモニュメント②

MY WORK

- ★建物名称 N邸
- ★建築場所 中津市大字定留
- ★設計者 有限会社やまむら一級建築士事務所
- ★施工者 有限会社 猪立山工務店
- ★構造・規模 木造平屋建 138.23㎡
- ★設計趣旨

屋根のムクリと唐風の玄関を持つこの住宅は、築100年以上の歴史ある住まいを建替え生まれました。

手刻みを常とする棟梁がこだわりを持って建てた重厚な面持ちは、最近見ることが少なくなった手刻みの温かさと、人の心を和ませる柔らかさと強さを持っています。この住宅もまた、先代の住宅と同様に、今後100年以上の月日を施主と共に過ごして行くことでしょう。



- ★建物名称 吉田耳鼻咽喉科クリニック
- ★建築場所 宇佐市大字上田
- ★建築主 吉田周平
- ★設計者 有限会社 グローバル アーキテツチーム・ガット
- ★施工者 株式会社 奥田組
- ★構造・面積 木造2階建て 284.42㎡
- ★用途 診療所
- ★建物雰囲気

外観は軒がなく、窓も少なくシンプルなデザインとなっています。屋根・外壁はガルバリウム鋼板（マットブラック）仕上で落ち着いた感じに見えます。内部は白を基調に木の温かみを感じさせる雰囲気となっています。待合室は天井が吹抜けていて開放的な空間となっています。窓から差し込む光が室内を明るくしています。



My Best Book

BOOK

マイベストブック



【ローマ人の物語】 塩野七生／新潮文庫 臼杵支部 佐藤 暢彦

本著は、ローマ人が自身を確立したとき（王政ローマ建国（紀元前753年）から、アイデンティティを失った日（東西ローマ帝国分裂後に東ローマ帝国がローマを奪還）までの「ローマ人の物語」です。

物語に登場する「ユリウス・カエサル」や「アウグストゥス」の英雄譚はやはり面白い。カエサル暗殺後、まだ十代であったオクタ비아ヌス（＝アウグストゥス）がカエサルによって後継者指名を受けていたことが判明した時など大興奮しました…と、このまま語ると壮大すぎる話になりそうです。よってこの本が「なぜ私のベストブック」なのかを重点にしたいと思います。

さて、ローマについて覚えていることって何でしょうか。私の場合、小中高と歴史を勉強したもののカエサル、マルクス・アウレリウス、暴君ネロ、ドラコン法、スパルタクス、グラックス兄弟、五賢帝…など時代も出来事も人も制度もメチャクチャでした。

映画やマンガでもローマの事は語られます。映画「テルマエロマエ」「グラディエーター」。マンガ「ヘウレ

ーカ」「アド・アストラ」「セスタス」。劇作「ジュリアス・シーザー」ひとつひとつが素晴らしい作品です。しかしそれらは私にとって完結した物語で、独立した伝説で、本の中だけのファンタジーでした。そんな私の中の「点」を結び「線」を引き、おぼろげながらも「形」を描いたのが「ローマ人の物語」です。

今までの映画、テレビ、読書の体験が繋がっていく感覚は「もっと本を読もう」「映画を見よう」「美術館に行こう」「人と話そう」と思わせてくれました。私以外の、私とは全く違う体験を重ねてきた方にとっては別の本が、映画が、絵画が、人が点同士をつないで線を引き、形を作るきっかけになるのでしょうか。

「一日にしてならない」道のりでしたが、体験同士が繋がり「ローマに通じ」た経験は忘れられません。



おおいだ建物発掘隊

別府市編

山田別荘

別府支部 小山 秀輝



玄関

□山田別荘（静寿堂）は、JR 別府駅東側の北浜に位置する、木造2階建て、入母屋造、棧瓦葺きの旅館です。建築年は昭和5年（1930）年であり、当時別府ケーブルラクテンチと関わりのある広島の実業家・山田英三氏が、夫人の静養のために建設した別荘建築です。

建築は錦水園をはじめ多くの別荘建築を手掛けた、地元の棟梁・田尻芳雄氏によるものであり、その後昭和26年（1951）年に旅館業を創始することとなり、現在も旅館として使われています。

玄関を入ると右手に洋館のロビーがあり、そこは建築当時、応接室として使われていた部屋で、気品のある落ち着いた空間となっています。また、その洋館部分の屋根は当時陸屋根となっており、全国的にも珍しいものとのことです。

主屋は南側の庭園を眺めながら雁行形に配置されており、庭園と一体的で開放性のある空間を作り出しています。



洋館ロビー



主屋廊下から見た庭園



□なお別府支部では、何度かこちらの旅館で忘年会を催しており、風情のある和風建築と庭園、そして美味しい料理とお酒を堪能させてもらっています。

【参考文献】

「大分県の近代和風建築」



事務局だより

★この度の平成26年度通常総会において、任期満了に伴う役員の改選が行われました。

今後とも会員の皆さんと一丸となって県民の安心安全な暮らしと地域の豊かな文化の創造に貢献する建築士会を目指します。

会 長	井上 正文 (新任)	副会長	未成 祐二
副会長	幸 勝美	副会長	藤原 秀樹 (新任)
副会長	渡邊 豊基	常務理事	石井 鏡成
専務理事	穴井 輔嘉	常務理事	宮崎 隆博 (新任)
常務理事	亀谷 芳久 (新任)	理 事	金只 昌平 (新任)
理 事	清末 幸生	理 事	小川 稔浩
理 事	上野 貢一	理 事	北口 芳康 (新任)
理 事	浅野 健治 (新任)	理 事	岡部 達巳
理 事	岡田 宏基 (新任)	理 事	伊東 政博
理 事	竹尾 憲和	理 事	尾方 秀則
理 事	仲摩 和雄	理 事	佐藤 敏孝
理 事	鈴木 義弘	理 事	鈴木 孝幸
理 事	後藤 悟	理 事	富部 直
理 事	山村 広明	理 事	中尾 忠廣
理 事	森本 秀春 (新任)	理 事	喜多嶋 茂 (新任)
理 事	宮本 吉朗 (新任)	理 事	椛田 康一
理 事	足立 忠明 (新任)	理 事	渡邊 賢一
理 事	内橋 繁行 (新任)	理 事	籠田 真一郎 (新任)
理 事	中道 了子 (新任)	監 事	山本 哲 (新任)
理 事	嵯峨 雄二	監 事	大塚 文美 (新任)
理 事	板井 登喜雄	監 事	中園 幸治 (新任)
理 事	高橋 利治 (新任)		

★各委員会の委員長も改選されました。

- 総務委員長 山村広明
- 事業委員長 竹尾憲和
- 広報委員長 後藤 悟
- 全国大会準備委員長 幸 勝美
- 広報委員会編集委員長 後藤憲二
- 調査研究委員長 鈴木義弘
- おおいた地域貢献まちづくり委員長 椛田康一
- 試験対策特別委員会・CPD・専攻建築士合同委員長 宮本吉朗
- 青年委員会・女性委員会合同委員長 籠田真一郎
- 昇降機等定期検査報告推進委員長 石井鏡成
- 建築構造技術センター委員長 未成祐二

★事務局職員のニューフェイスです。

建築構造技術センター長の野田啓司さん、事務局員（主に大分支部担当）の若松加奈子さんです。宜しく申し上げます。

広報委員

担当常務理事 委員 長 員
〈大分〉 宮 崎 隆 博
〈大分〉 後 藤 悟
〈大分〉 常 廣 竜 也
〈津久見〉 濱 野 一 明
〈日田〉 佐 藤 敏 孝
〈中津〉 佐 藤 博 昭

編集委員

担当常務理事 委員 長 員
〈大分〉 亀 谷 芳 久
〈高田〉 後 藤 憲 二
〈大分〉 足 立 忠 明
〈大分〉 岐 部 和 久
〈大分〉 日 高 雄 介
〈大分〉 都 瑠 淳 一
〈別府〉 小 山 秀 輝
〈国東〉 野 田 忠 博
〈臼杵〉 佐 藤 暢 彦
〈津久見〉 山 本 忠 昭
〈佐伯〉 長 田 孝 治
〈佐伯〉 疋 田 寛 子
〈佐賀県〉 井 上 雅 順
〈三重〉 佐 藤 勤 也
〈竹田〉 玉 田 智
〈玖珠〉 白 地 泰 憲
〈日田〉 伊 藤 照 幸
〈中津〉 佐 藤 博 昭
〈宇佐〉 渡 邊 賢 一

建築士大分 2014 No. 112

(非売品)

平成 26 年 8 月 20 日 印刷

平成 26 年 8 月 20 日 発行

編集／発行所
公益社団法人

大 分 県 建 築 士 会
〒870-0045

大分市城崎町1-3-31 富士火災大分ビル3F
TEL 097-532-6607
FAX 097-532-6635

印刷所／いづみ印刷株式会社 大分市高江西1丁目4323番25号 TEL (097) 535-8655

建築士

おおいた

本・支部名	〒	事務局所在地	TEL
高田	879-0625	豊後高田市水取 334 番地 2	0978-22-2216
国東	873-0503	国東市国東町安国寺 718	0978-72-2887
別府	874-0907	別府市幸町 8-32 (株)ユウキ内	0977-22-1921
本部・大分	870-0045	大分市城崎町 1-3-31 富士火災大分ビル 3F	097-532-6607
佐賀関	879-2201	大分市佐賀関 4-3341-4	097-575-1120
臼杵	875-0082	臼杵市稲田中尾下 1000-1 (有)みえのブロック内	0972-63-6695
津久見	879-2436	津久見市上宮本町 6-22	0972-82-8806
佐伯	876-0833	佐伯市池船町 19-14	0972-23-6099
豊後大野	879-7131	豊後大野市三重町大字市場 2 区	0974-22-6606
竹田	878-0026	竹田市大字飛田川 1618-6	0974-62-3711
玖珠	879-4632	玖珠郡九重町松木 4415-2 藤原工務店内	0973-76-3999
日田	877-0025	日田市田島 1-7-43-1F 102 (有)藤原設計内	0973-24-6022
中津	871-0024	中津市中央町 1-5-24 中津建築会館内	0979-24-3597
宇佐	879-0453	宇佐市上田 931-3 宇佐建設会館内	0978-33-3395
本部	http://www.oita-shikai.or.jp/		
高田支部	http://www18.ocn.ne.jp/~ksikai/		
国東支部	http://www.beppu-onsen.jp/		
別府支部	http://homepage2.nifty.com/k-shikai-oita/oitasibu/		
大分支部	http://www.bungo.or.jp/usk_shikai/index.html		
佐賀関支部	http://www.bungo.or.jp/t-shikai/		
臼杵支部	http://www.geocities.jp/o_s_kentikusi/		
津久見支部	http://www61.tiki.ne.jp/~kentikusi-ta/index.htm		
佐伯支部	http://homepage3.nifty.com/ken-kusu/		
豊後大野支部	http://www.d-b.ne.jp/ken-hita/index.htm		
竹田支部	http://kentikusi-nakatu.net/		
玖珠支部			
日田支部			
中津支部			
宇佐支部			

会員増強にご協力を！

～会員二人で、一人の入会勧誘を～



公益社団法人 大分県建築士会